



園芸作物栽培に関する

これからの対策

Q & A

一気に梅雨入りしました。カビ菌による病害の発生予防を徹底しましょう！



大門 優
園芸アドバイザー
お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

平年より二日遅れて入梅となりました。また暖冬をもたらしたエルニーニョは収束し、ラニーニャ現象が出現すると言われています。梅雨期間は降水、日照は平年並みであるが気温は高めと予想されており、梅雨期間の降雨傾向は昔のダラダラ降雨、シメシメ湿気から、近年は気温が高く推移した後に前線が通過し、集中豪雨のような短期の大雨傾向に変化してきているように思われます。

このような気象下では、圃場の冠水が心配されます。作物はもともと土と太陽に左右されます。太陽はコントロールできませんが土(圃場)の管理は耕作者次第です。梅雨の間は圃場の排水を第一に考えましょう。

◎各作物の管理ポイント

○病害の防除

梅雨期の高温多湿状態は病気を引き起こすカビ菌や害虫のことも好む環境となります。代表的な病気を以下に病害に注意しましょう。なお、整枝剪定を行い通風採光を図る、窒素肥料を与え過ぎない、圃場排水を図るなどの対策を行うことで病害の発生は少なくなります。なお、排水不良などで根が傷み萎れが発生することがありますが、肥料を与えれば元気になると思いきい追肥を多く行い、かえって状況を悪くしてしまうことがよくあります。まずは排水を図り整枝し、軽く遮光をしてやり様子を見ましょう。

○主な野菜の管理ポイント

ウリ科野菜はツルの伸びが早くすべに混み合うので、早めにツルを間引くなど過繁茂とならないうちで手当てしてください。追肥は果実が着果してきたら行います。施肥位置はツル先付近に「NPK300」などをまきつけておきましょう。果実は地面に直接触れないようにコンパなどを敷いておきましょう。

なお、毎年実がつかないという相談があります。ですが、肥料が多めで整枝が全くなれていない、親ツルが摘芯されていなく草勢が強い場合、このような状況になります。使用した肥料を取り除くことはできないので、孫ツルなどを摘除するなどで草勢を抑えるしかありません。

果実の収穫は甘ウリ系で卵大から35日前後、カボチャは45〜50日、スイカは35〜40日位が目安となります。

トマトやナスは芽掻きが遅れないように早めに行いましょう。作業は晴天の午前中に行います。草丈の伸長に伴い風などで倒れないよう支柱をしっかりと固定しましょう。

サトイモはお盆までしっかりと体を作りましょう。そのためには土寄せをしっかりと行うことで、畝の周りの通路は常に湿り気がある状況に保っておくことがポイントとなります。なお、ナスについても同様のことが言えます。ナスは水分が不足すると果実の変形や空洞ナスが発生します。

キュウリやナス、ピーマンの葉が内側に巻くという声も聞きます。これは水不足や肥料不足、根腐みやダニなどの寄生でも発生します。いずれにしても葉が成長するのに必要な養分が十分に供給されていない状態になっているわけですから原因に見当をつけてから対処しましょう。

急に梅雨入りしたためバレイシヨがまだ残っている方もおられると思えます。掘取りは土がある程度乾いている状態で行わないと収穫後手が



ナスの空洞果



ナスの褐色腐敗病



キュウリのべト病

| | ナス | | ウリ類※ | | トマト | | ナス科※ | 全般 | |
|--------------|-------|-------|------|-------|------|----|----------|-------|----------------|
| | 褐色腐敗病 | ウドン粉病 | べト病 | ウドン粉病 | 葉カビ病 | 疫病 | 青枯れ病 | 灰色カビ病 | アブラムシ |
| ダコニール1000 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 有効な薬剤はない | ○ | モスピランなど多くあります。 |
| トップジンM水和剤 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| ジマンダイセン水和剤 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| アミスター20フロアブル | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| カスミンボルドー | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| ランマンフロアブル | ○ | | ○ | | | ○ | | | |

※ウリ類(ウリ、スイカ、キュウリ、カボチャなど)、ナス科(ナス、トマト、ピーマン、シシトウなど)防除に際しては薬液が葉裏にかかるよう、また葉から滴が垂れる位たっぷり散布してください。
(注記)上記の早見表は個々の作物登録内容を精査したものではありませんので、使用にあたっては登録内容を確認の上使用してください。

梅雨の時期は雑草がよく伸びます。除草作業は大変です。手による除草では三角ホーなど柄の長い農具が楽な姿勢で作業ができます。除草剤の使用にあたってはブリグロックスリは速効性で処理後1〜2日で効果が出ますが大きくなった草は枯殺が難しくなります。また雑草の再生も早い。バスタ液剤は効果発現まで数日を要しますが根まで弱らせるので抑草期間は1ヶ月強程度あります。ラウンドアップも同様の効果がありますが製品が複数あり、効果発現の早さなどにそれぞれ特徴があります。

また、私の経験では散布も朝露が少し残っているような時間帯にやると雑草への浸透もよいので効きがよくなるように思います。

なお、スキナの駆除がよく問題となりますが、バスタがよく効きます。しかし根絶するには再生の度に散布を2〜3回行います。ラウンドアップを使用する場合は濃いめの25倍液を散布しましょう。また石灰を撒くと根絶できると思われるのですが、実際はほとんど効果がありません。

腐りやすくなります。雨が続くようなら当面食べる分だけ収穫し、梅雨明けまで掘取りを待ちます。土の中に長くあった分、やや肌は荒れますが食べる分には全く問題はありません。なお、梅雨の間に疫病が進展してきたら早めに掘り取らなければなりません。

ナメクジは田中は作物や資材の影に隠れて夜徘徊します。畝の敷きワラやマルチの下などにも潜んでいます。「スロコ」など誘引剤は非常に効果が高い薬ですが濡れてしまうと効果が落ちます。タイミンクとしては風の強い、暖かな日の夕方に散布します。ナメクジは次々に卵から出てきますので1週間から10日ほど3回連続してやるのがベストです。

☆お奨め商品

固形肥料を溶かして液肥として使用する場合「NPK300」を使用することがよくありますが、溶け残りが多く使いづらい面があります。ここに紹介する「野菜の達人」は非常に水に溶けやすく簡単に液肥となりますが、加えて葉面散布剤としても使用できます。当然普通の追肥としての使用もでき、潮解性もなくサラサラしているので使い勝手のよい肥料です。



◎秋野菜の準備

秋野菜のうちキャベツ、ブロッコリーは品種によりますが7月の中旬から播種が始まります。この時期は高温乾燥の時期ですので、セルトレイなど用土の少ないポット育苗は非常に困難です。箱播きや地床育苗しましょう。

ポリポットを使う場合は最低、径が7.5cm以上のポットを使うようにしてください。播種直後から幼苗期はナメクジ、それ以降はアオムシ・キスジノミハムシなどの食害に注意します。昼前後の直射日光は避け、寒冷紗やヨシズなどでやや遮光して温度が上がらないよう、また雨でたたかれないように管理します。



近年増えているキスジノミハムシの食害に注意

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。